

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 4月 16日

事業所名 共生型福祉サービス事業所タッチチップス

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1	パーティションなどで部屋を区切り、訓練室等のスペースを確保している。	屋内で活動できる場所を増改築をして改善する目標がある。
	2 職員の配置数は適切である	7	1	職員配置を個々に合った支援が出来るように見直している。	社内研修や外部の講師の方の講義を研究に取り入れ安定して就業できる環境や知識の向上を図っている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	0	設備については配慮して整備を行っている。	備品や遊具などで児童が怪我につながらないように、当事者意識を持ち行動するように職員間で周知している。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	2	毎朝の朝礼や会議を通して、改善に努めている。	職員全員が日々の業務の中で意識して取り組むための、職員の能力の向上のための取り組みを行う必要がある。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	2	保護者の意向を汲み、職員間のコミュニケーションの充実を図っている。	保護者とのコミュニケーションの質を向上させる為、会議等で話し合い業務改善に繋げている。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	3	ホームページで公開している。	関係者全員がホームページの情報を把握できるよう取り組み改善を行っていく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	5	現在行っていない。	外部評価については今後具体的に検討し業務改善に繋げていく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	1	定期的に研修を行い職員の資質の向上を行っている。	職員の専門性を活かして研修などを行い、外部研修も積極的に行っていく予定。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	1	現在すべての利用者のアセスメントを見直している。	アセスメントの見直しを行いながら、引き続き個別支援計画の作成を計画的に行っている。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	0	職員間で周知し、状況を把握するようにしている。	会議などで子供の状況を把握し、職員同士で情報や状況の共有を行っていく。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	3	職員会議や日々の業務の中で取り組んでいる。	現在行っているプログラムを個々に合った質の高いプログラムを計画できるように検討中。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	1	職員間で共有しあい固定化しないように話し合いをしている。	利用者の障害程度や健康状態を反映し、利用者がより楽しく成長できるように取り組んでいく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	2	個々の児童に柔軟に対応している。	個別支援計画を元々にそれぞれの課題に合った支援方法を検討、実施している。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	日々対応している。	実施している内容を職員間で共有し、状況に応じて見直し確認を行っている。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	1	朝礼にて支援の内容や役割分担について確認している。	今後も継続してそれぞれの職員の取り組みの充実、意識共有を図るようにしていく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	4	その日の課題はその日の内に解決するようにしている。	朝礼やホワイトボードを活用して課題などの確認を行っている。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	1	スムーズに業務が行えるよう検証・改善を行っている。	児童と直接関わる時間が増えるように記録様式の見直しを行い、不備があればその都度改善を行っていく。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	0	計画的に行っている。	モニタリングの時期が分かりやすいように表でまとめ職員間で共有できるよう可視化を行う。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	8	0	常に意識して実施している。	形にとらわれることなく、利用児童の成長が図れるよう取り組んでいく。	
関係機関	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	1	実施している。	基本的には児童発達支援責任者が参加しているが、子どもの状況や実情に詳しい職員等も参加している。
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8	0	学校からの情報については送迎時以外にも連絡を行っている。	今後も学校との連携や情報共有を行い、子供や保護者が安心して利用できるように内容の充実を図っていく。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6	2	保護者からの情報が不十分な場合は保護者の許可を得て行っている。	現在は密に連絡を取る必要がある利用児童はいないが、医療的ケアについては保護者の許可を受けたくて、主治医と連携の充実を図っていく。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7	1	事前に情報を収集している。	個別対応の内容の充実をしていき、情報共有を行い連携しながら支援を行っていく。

や保護者との連携	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	8	0	個々の環境に応じて行っている。	今後は提供した情報等について文書化して記録していく計画である。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	5	個々の児童の状況や課題について連携している。	今後は計画的に研修等に参加し、情報共有を行っていく予定である。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	6	現在検討中である。	コロナの為に自粛していたが、今後活動の機会を作り予定である。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	5	現在は参加できていない。	今後(地域自立支援)協議会等へ働きかけを行っていく予定。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	1	送迎時や、必要に応じて保護者への連絡を行っている。	職員間で共有し共通理解が深まるよう、取組の強化を図っていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6	2	困難を抱えている保護者に対しては、積極的に働きかけている。	保護者の意向を汲み状況に応じて支援等を継続的に行っていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	1	理解が不十分な場合は補足して説明する働きかけを行っている。	契約時に運営規定、支援内容、利用者負担等丁寧に説明を行っている。
保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	個々の状況に柔軟に対応している。	必要な助言と支援を行っていくための、知識や情報の収集を行っていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	6	年に1回イベントを開催し、連携の支援を行っていたがコロナの為に自粛。	今後の状況により、保護者が参加できる活動など計画中。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	迅速な対応を行っている。	苦情委員会を再編し、迅速かつ適切に対応できる体制を整えている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	5	SNSを通じて支援内容を共有	SNSを活用して活動などを発信している。
	35	個人情報に十分注意している	8	0	保管場所などや、取り扱いを会議等で周知している。	個人情報については、職員全体で意識して十分注意して取り扱う。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	1	個別の状況を判断した情報伝達を行っている。	利用者、家族ともに意思疎通・情報交換を心がけて行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	6	地域との関係については、閉鎖性がないよう配慮を行っている。	事業所の行事に地域住民を招待することで開かれた事業運営とは考えていない。事業所から地域行事への参加を通して開かれた事業運営を目指したいと考えている。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	1	現状に合ったマニュアルを作成中。	マニュアルの再編集を行い、職員や保護者に対しても周知をしていく予定。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	2	年に2回の避難訓練を計画中。	災害時に備え連絡系統を整え、消防や警察との連携を図り、訓練を計画的に実施していく予定。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	1	研修会や勉強会を行い虐待に関する知識や対応を話し合っている。	虐待の正しい知識や対応を学び、利用者にとって過ごしやすい環境が作れるように日々の業務を行っていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	0	保護者への説明の上で、承諾書をとっている。	契約の際、やむを得ず身体拘束を行うかについて必ず説明を行っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	0	主に保護者からの情報に対応している。	医師の指示書が必要な児童の場合は、医師への指示書の依頼を行っていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	1	ヒヤリハットの記録を行い事業所内でしている。	ヒヤリハットや事故報告などがあつた際には職員間で話し合い、見直しを行い、周知徹底をしていく。